

授業改善プラン

地域名	北総教育事務所	学校名	旭市立干潟小学校
-----	---------	-----	----------

1. 課題（全国学力・学習状況調査結果から）

- 平成31年度全国学力・学習状況調査結果によると、単分量あたりの大きさ、示された除法の式の意味を問われる設問に課題がみられた。
- 誤答分析の解答類型から、問題文を解釈し、解決に必要な情報を取り出し、その情報を基に設問に答えることに課題があることがわかった。

2. 取組のポイント（仮説、改善方法等）

- ①学習の見出す場面で日常生活と結びつけた素材を提示することで、児童の学習意欲が高まり、課題に主体的に取り組むことができるであろう。
- ②問題文を解釈する力をつけるための取組を工夫することで、課題が明確になり見通しをもって自力解決に取り組むことができるであろう。
- ③授業の様々な場面で対話活動を取り入れることで、数学的な見方・考え方を働かせながら主体的に課題に取り組むことができるであろう。

3. 具体的な実践

○5年「小数のわり算」少人数指導(Aコース、Bコース)

①日常生活と結びつけた素材の工夫

- ・単元を通して素材文の場面を学校で行われている体育館工事の過程に設定し、素材にストーリー性をもたせたり、委員会活動における花壇の水やりを設定したりするなどして児童の日常生活に結びつける工夫をした。

②問題文を解釈する力をつけるための取組の工夫

- ・「問題文の整理の仕方」により、問題文から必要な情報を取り出し、演算を決定することができるようにした。さらに、単元を通したキーワード（「1つ分」「いくつ分」「全部」等）を設定し、考えをノートにまとめる際に、それを図や表に書き込むなどして、まとめるようにした。

③主体的に課題に取り組むための対話活動

- ・自分の考えを相手にわかりやすく伝えるために4マス関係表等を用いて、児童同士による対話活動を行った。その際、互いの考えの同じ部分や異なる部分に注目できるよう視点を持たせた。

4. 成果

- 児童にとって身近な日常場面を設定することで、問題文の場面が想起しやすくなり、課題に、より主体的に取り組めるようになった。
- 「問題文の中に出てくる数量とその数量の関係を図や表を使って明らかにした上で演算を決定する。」という手順を示すことで、見通しをもって学習に取り組むことができた。
- 視点を明確にして対話活動を行ったことで、新たな考えに気付くなど、学びが深まった。また、より意欲的な取組がみられるようになった。

◆担当指導主事から（北総教育事務所 指導主事 吉田 純一）

旭市立干潟小学校は、全国学力・学習状況調査の問題の傾向や、自校の課題を共有するために、校内研修を行い、全校の共通の課題として仮説に沿った取組を実践した。算数科の授業研究を通して教員の指導力向上に努めるとともに、自校の課題解消に向けて教員が一丸となって授業づくりに励み、児童の学習意欲を引き出す授業改善に取り組んだ。